

第3章 まちづくりと只見ユネスコエコパーク

1. 第六次只見町振興計画と只見ユネスコエコパーク登録の関わり

只見町は、過疎・高齢化、それに伴う地域産業の衰退が急速に進み、地域社会を今後どのように維持・発展させていくかが大きな課題となっています。そのような中で、町は平成の大合併を選択せず、平成18年に「第六次只見町振興計画」を策定し、独自のまちづくりを歩むこととしてきました。

この「第六次只見町振興計画」における理念は、「～ブナと生きるまち 雪と暮らすまち「奥会津只見の挑戦 真の価値観の創造」～でした。すなわち、これまでのように都市部を追随するような地域振興と決別し、都市部にはない只見地域の豪雪が特徴づける豊かな自然環境、それらをよりどころとしてきた伝統的な生活・文化・産業を活かした町づくりを進め、人間は生態系の一部であるという人間本来の価値観を築くことを具体化するために様々な事業を展開することとしていました。

特に理念の一つである「ブナと生きるまち」の実現のため、ブナを核とした対外活動・普及活動・研究活動・情報発信活動などの拠点として、平成18年に「只見町ブナセンター」を開設しました。また、平成19年には日本の自然の中心地は只見であるという「自然首都・只見」宣言を行い、ブナ林に代表される只見の自然環境を保護・保全し、次世代に引き継いでいく責務を宣言したところです。

そして、「第六次只見町振興計画」での理念と事業計画とあわせ「自然首都・只見」をより強力に具体化させるために、自然環境や天然資源を保護・保全しつつ、それらを持続可能な形で利活用を通して地域の社会経済の発展を目指す「ユネスコエコパーク」登録に向けて戦略的に取り組み、平成26年6月12日に「只見ユネスコエコパーク」への登録を実現したところです。

2. ユネスコエコパークの概要

ユネスコエコパークは、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が実施する「人間と生物圏（MAB：Man and the Biosphere）計画」の中心事業である「生物圏保存地域（Biosphere Reserves：略称BR）」のことで、

MAB計画は、世界中で人間活動による環境破壊が進み、人間自身の生存基盤でさえも脅かされている現状の中で、人間と自然環境の調和のとれた関係を築き上げるための科学的な調査・研究、情報交換を行う国際協力事業として1970年に発足しました。その後、MAB計画の中で、地域の自然環境の保護・保全を図りつつ、それら自然環境や天然資源を持続可能な形で利活用することで地域の社会経済的な発展を図ることを目的にBR制度が設けられました。BRは、いわば「人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域」として国際的に認定されるものです（一方、ユネスコ世界自然遺産は、世界唯一無比の貴重な自然環境を厳重に保護することを目的としています）。

日本国内では、BRの認知度向上を図るために、一般的に「ユネスコエコパーク」と呼ばれており、世界では119カ国631地域、日本国内では7地域が登録されています（平成26年6月現在）。



只見ユネスコエコパーク
のロゴマーク

3. ユネスコエコパークが目指すもの

ユネスコエコパークは、その目的である「人間社会と自然環境の共生」を実現するために以下の3つの目標を掲げています。



これら3つの目標はそれぞれが独立するものではなく、互いに補完、強化しあう関係になります。

この「第七次只見町振興計画」では、ユネスコエコパークの目的を達成するために、3つの目標に関連する事業計画を組み立て、実行することで「只見地域の社会経済的な維持・発展」を実現することとしています。

4. 第七次只見町振興計画と只見ユネスコエコパークの関わり

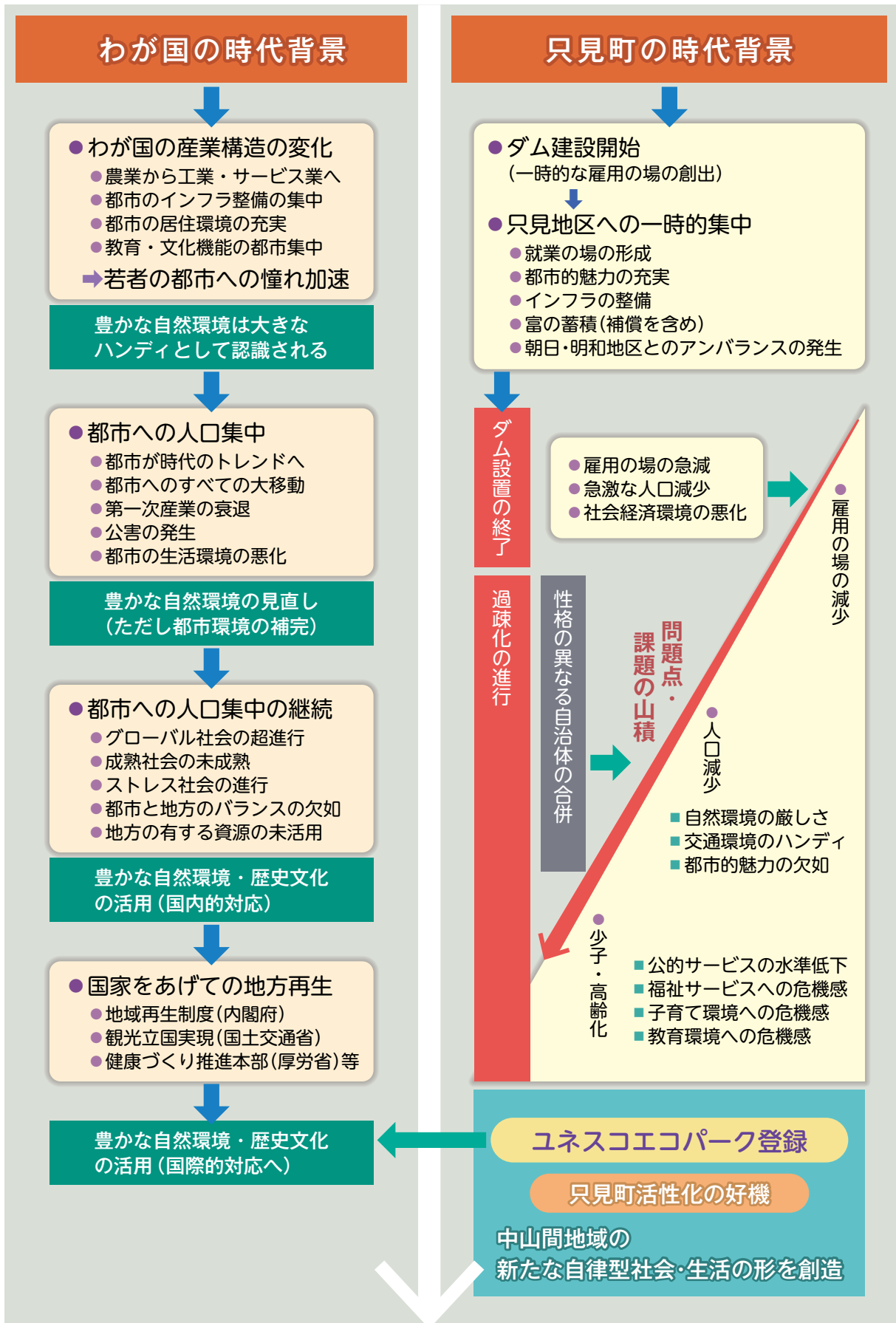
「第七次只見町振興計画」は、前計画で進めてきたまちづくりを継承する形で基本理念を引き継ぐとともに、心の豊かさを求め「只見ユネスコエコパーク」の取り組みによる地域社会の発展を目指すため、～ブナと生きるまち 雪と暮らすまち 心豊かに生きるまち 自然首都・只見の挑戦「人と自然の共生」～をまちづくりの基本理念としました。

この基本理念のもと、本計画においては、ユネスコエコパークの3つの目標、「自然環境、生物多様性の保護・保全」、「学術調査研究、教育・研修、人材育成」そして「持続可能な環境・資源の利用と地域の社会経済の発展」を推進するための施策を取り入れ、策定をしたところです。

その理由として、「只見ユネスコエコパーク」に登録となった本町では、これらの目標達成に向けた取り組みなくして、町の将来を描くことはできないものと考えているからです。

ゆえに、この「第七次只見町振興計画」はこれらの認識に立ち、本町の将来に向け、基本計画における事業の展開をしっかりと図っていくものです。

5. 時代背景と只見ユネスコエコパーク創生プロジェクト



只見ユネスコエコパーク創生プロジェクト

— 住民一人ひとりが新交流システムの創造者・担い手です!! —

只見町の有する資源の活用

只見町の地域資源(自然)

- 只見ユネスコエコパーク(世界的資源)
 - ブナ天然林
 - 雪食地形(アバランチシュート)
 - 豊かな生物多様性
 - モザイク植生

只見町の地域資源(歴史・文化)

- 縄文遺跡
 - 会津只見考古館
- 只見町の民具
 - 「生産用具と仕事着コレクション」
- 職人巻物
 - 職業別免許皆伝等

只見町の地域資源(社会資源)

- 様々な能力・魅力を有する人材
 - ユニークな人材の存在
- JR 只見線
 - 新潟と福島を結ぶ秘境鉄道
- 数多くの宿泊施設
 - 合宿需要にも対応可能
- IT 環境の充実
 - 光ネットワークの整備

只見の自然・歴史・文化・人で織りなす地域絵巻

ユネスコエコパークによる新たな交流の創出

小さな拠点と小さな集落との共生と対流

- 地域特性を活かした交流の創出
- 只見ユネスコエコパークの象徴的地区の整備による交流の創出

- 健康交流の創出
- 健康の維持・増進をキーワードとした交流

地域特性を活かした交流
× 六次産業交流



会津只見考古館



つる細工教室

ネットワークによる
魅力の向上

● 智的*交流の創出

- 自然・歴史・文化・人による交流が生む魅力の創出

* 智的とは、知識と知恵を包含する意味です。

● 六次産業交流の創出

- 横の人的ネットワーク社会システムによる縦割りからの脱却

× 智的交流 × 健康交流
= 定住環境の創出

新たな交流を創出するネットワーク

● 地域特性を活かした交流ネットワーク

- 只見・朝日・明和地区の拠点と集落との共生と交流
- 各地区の特徴を明確化したまちづくり
- 地域創生に向けた新たな地区の魅力の核を目に見える形、心に響く形で表現

施設整備の3原則

- 既存施設の徹底的活用
- 高齢者・身障者対応の組入
- 住民の日常的生活機能組入

● 智的交流ネットワーク

- 若者や観光客などの智的交流施設・プログラム
- 只見町ブナセンター、会津只見考古館、歴史的資料収蔵館等を中心とした智的交流施設・プログラムネットワーク
- 都市との質の高い人的交流ネットワーク

● 健康・スポーツ・レクリエーションネットワーク

- 季の郷湯ら里を中心とした、既存宿泊施設の交流ネットワーク
- ユネスコエコパークの活用によるレクリエーション施設・プログラムのネットワーク

● 六次産業創出推進ネットワーク

- 全事業を包括して運営する田舎社会における百姓精神の事業運営・ネットワークシステム（既存組織の活用・再編）
- 業種間・年齢間・需要と供給のバランス調整を行い、安定雇用を確保（小さなまちの新たな雇用・働き方）



ブナセンター講座



ブナ林観察会